

# 普及「経鼻」痛み少ない内視鏡検査

鼻から細い管を入れ食道、胃、十二指腸などを調べる経鼻内視鏡検査が普及しつつある。バリウムによるX線検査や、のどの反射が強くて経口内視鏡が苦手な人たちに好評だ。なかむらフアミリークリニック(熊本市武蔵ヶ丘7丁目)の中村憲史院長は「胃の調子が悪いのに検査が嫌で二の足を踏んでいた人たちにも、気軽に検査を受けてもらえます。今後ますます普及するでしょう」と話す。

従来の経口内視鏡(太さ9〜10ミ)に比べ、経鼻内視鏡は太さ6ミ以下、間眠ることもあり、帰りは車での移動が難しい。細くてしなやかなたは車の運転ができない。鼻の穴から食道へス入れれば、偶発事故のリスクもある。経口でも、鎮静剤を使えば、鎮静剤なしでも大丈夫

## 食道、胃、十二指腸など

## 鎮静剤なしでOK



鎮静剤(全身麻酔)なしでも苦痛がほとんどない経鼻内視鏡検査(中村憲史医師提供)

太さ約10ミの経口内視鏡(左)に対して経鼻内視鏡は約6ミ、細くてしなやかだ

夫です」  
導入初期は、経口に比べスコアの画質が劣り、発見率が低いという問題もあったが、「カメラの進歩で画質が向上し、新型の経鼻内視鏡は旧式の経口内視鏡より見やすいものもあります。細くてしなやかなため経口では見にくい部分が見やすいという利点もあります。専門医が検査すれば、病気を見落とすことはまずありません」  
しかし経鼻内視鏡が使えない人が約5%。鼻腔が曲がっていたり、狭かったりする人、鼻アレルギーが強い人などには向かない。まれに鼻血が出る人もいます。

もちろん経鼻内視鏡が普及しても、経口内視鏡に取って代わるものではない。経鼻内視鏡は生検はできるが、治療はできない。病変をばくE.S.Dという最新の治療法まで内視鏡治療は日々進んでおり、経口内視鏡の重要性はいよいよ増している。

「経鼻対経口ではなく、ケース・バイ・ケースで両者を上手に使い分けながら、患者さんに有益な検査と治療を行うのが大切だと思っています」

同クリニックでは、①経口で鎮静剤あり②経口で鎮静剤なし③経鼻で鎮静剤あり④経鼻で鎮静剤なしの四つの選択肢について十分に説明を行い、患者に選んでもらう。高齢者はのどの反射は少ないものの、太い経口内視鏡を入れると心拍数が上がる人もいます。そういう人には細い経鼻内視鏡を口から入れるという選択もある。

検査費用は経鼻も経口も健康保険が適用され、3割負担なら同じ3300円。

「今のデジタル技術の進歩を見ると、経鼻内視鏡はまだまだ細くなり、画質も向上するでしょう。将来は人間ドックや検診でも、バリウムX線検査に代わって、1次検査で使われるようになると思います」

(坂本収典)